第69回　大阪府青少年読書感想文コンクール・府3
小学校高学年の部　特選
負けることで学ぶこと
和泉市立緑ケ丘小5年　奥田紬さん

「あー。負けちゃった。勝たないと意味ないのに。」
私は、勝負で負けた時いつもこう思う。なぜなら、勝負は勝たないと意味がないから。今までの努力が全部つぶされた気がしてとてもいやだ。
水泳大会で負けた時、きっとナルも私と同じことを思ったにちがいない。四位という最悪な結果に終わったからだ。しかも一位は、一番のナルのライバル、キム・チョヒだ。一番のライバルが一位を取ると、イライラするのは私ととても似ている。私は、小さいころから負けずぎらいで、一位を取らないと満足しない性格だ。
私とナルは勝負に負けた時、相手をうたがってしまう。ナルはキム・チョヒの水着がきらきら光っているから、ずるをしているのではないかと思った。私も、体そうスクールでテストに落ちてしまった時、受かった友達を、「その時たまたま調子が良かっただけじゃないか。」と、うたがった。にているところを見つけるたび、私は自分とナルを重ねていった。
ぎもんに思ったことがある。それは、ナルのコーチが私とナルに教えてくれたことだった。「どう勝つかより、どう負けるかの方が大切。」ということだ。それを見た時は、「どう勝つかの方が大切じゃん。どれくらい二位と差をつけられるかが大切だよ。」と、コーチに反論したくなった。ナルだって、「よくわかりません。」と言っている。けれど、「どう負けるか」という言葉が心に残ってしまった。
私はふと、オリンピックの選手の行動を思い出した。他の国の人と競技で対戦したあと、あくしゅをしていた。その行動にはどんな意味があるんだろう。私には、戦った後に対戦相手とあくしゅするなんてありえなかった。「おめでとう。」と笑顔で言うこともできない。それは、自分の努力を台無しにした相手だからだ。人は負けた時、くやしい、と思う。思ったら、もっと努力して、またその相手とならぼうとする。でも、そうやって努力しようと思えるのは、対戦相手のおかげだ。だから、あくしゅをするのかもしれない。あくしゅをするってことは、ありがとうってことなんだ。私はその時、ナルのコーチの言葉の意味を理解した。早くこれをナルに伝えたい。負けて相手をうたがったりするのは、まちがっていることだと。しんけんに戦ってくれている相手に感謝するべきだ。
ナルはその後、水泳大会でまたキム・チョヒに負けてしまった。けれど、ナルも私と同じことを学んで、キム・チョヒとあくしゅすることができていた。ナルが変わったのなら、私も変わらなくちゃ。
私はもう、勝負は勝たなくては意味がないとは思わない。負けることで学ぶことがある。負けたくやしさで、また立ち上がって努力することができる。大切なことを、この本が教えてくれた。
（「5番レーン」ウンソホル　訳・すんみ／鈴木出版）